


活用実践事例

授業の概要					
学校名	小学校				
授業日時	2014年12月3日	学年	4	教科	総合
単元名	津波から身を守る				
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見学や聞き取りを通して、地震・津波の簡単なメカニズムを知り、防災に対する正しい知識や備えを身につけることができるようにする。 ・ 災害時にどこにいても安全に避難できるよう、自ら適切な判断や行動ができるようにする。 				
単元の流れ	<p>① 堀江のまちに起こりうる災害にはどんなものがあるかを調べる。津波を想定した避難訓練に向けて、津波が来たとき、校舎の2階まで水が来るイメージや危機感を持つ。</p> <p>②・③・④ 津波・高潮ステーションを見学し、資料や映像、体験コーナーから、津波によって起こる危険について考える。津波から自分のいのちを守るためにどんな行動や備えが必要か考える。自分たちの家庭では、地震・津波にどのように備えているのか、また、家族のいのちを守るためにどんなものが必要なのかを考える。</p> <p>⑤・⑥ 昨年石巻市を訪れた本校教員に現地の様子を聞き、実際に津波災害が起こったまちの悲惨な状況や安全に避難した人たちの生活の様子を理解する。南海トラフ地震が起こったとき、堀江のまちにどのような規模の災害が起こるのかを考える。</p> <p>⑦・⑧ 堀江のまちを歩き、地域の避難場所や安全な場所、避難経路の危険な場所を確認する。</p> <p>⑨ 堀江のまちのどこにいても安全に避難できるよう、地震・津波発生時の適切な判断や行動について考える。 (本時)</p> <p>⑩・⑪・⑫ 津波を想定した避難訓練について、再度話し合い、避難経路や避難場所、避難のよりよい方法について考える。堀江のまちについて調べたことを活かし、安全な避難の方法や心構えについてまとめる。</p>				
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 堀江のまちのどこにいても安全に避難できるよう、地震・津波発生時の適切な判断や行動について考えることができるようにする。 				
本時の授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 少人数学習 <input type="checkbox"/> 習熟度別学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習				

活用実践事例

ICT活用場面	
授業場所	普通教室
ICT機器活用場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> その他
	その他
活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 学習者 <input type="checkbox"/> ICT支援員 <input type="checkbox"/> 授業づくり指導員
活用機器	<input checked="" type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 学習者用タブレット <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用タブレット <input checked="" type="checkbox"/> 実物投影機 <input type="checkbox"/> その他
	その他
活用コンテンツ	<input type="checkbox"/> デジタル教科書 <input checked="" type="checkbox"/> SKYMENU <input type="checkbox"/> Schoology <input checked="" type="checkbox"/> その他
	その他 デジタルワークシート
タブレット活用形態	<input checked="" type="checkbox"/> 一人一台 <input type="checkbox"/> 学習班に一台
活用の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルワークシートを分割して書き込んだり、教室に掲示している資料をカメラ機能で取り込んで貼り付けたり、これまでに習得したデジタルコンテンツを各自が選択し、タブレットPCを有効に使っての意見交流や発表ができるようになった。 ・ ワークシートに自分の考えを書いた後、グループでタブレットPCを活用して交流する形をとった。アナログとデジタルの両方のよさを生かし、必要な資料を残して、振り返ることができた。

活用実践事例

授業の展開		
学習の流れ	ICT活用場面	ポイント
<p>【導入】 堀江の町も水に浸かったことがあり、津波被害も起こり得ることを前提に、自分たちが考えた起こり得る災害被害について発表する。</p>	<p>写真や資料の掲示に活用。</p> 	<p>【思考・分析②】 堀江の町に起こり得る災害被害について、わかりやすくまとめ、工夫して表現している。</p>
<p>【展開】 堀江のまちについて調べたことを活かし、地震・津波が発生したとき、とっさにどのように判断し、行動すべきかを話し合う。</p> 	<p>資料の掲示に活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震の恐れがあることや、海底におこる地震のメカニズムなどについても想起しやすいようにする。 	<p>【思考・分析①】 これまでに学んだことを活かして、よりよい身を守る方法を考えようとしている。</p> <p>【自己理解①】 自分にできることを考え、探究活動に取り組んでいる。</p>
<p>どんな情報が必要かを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで交流する。 ・全体で交流する。 	<p>自分の書き込みを示しながら話し合う。</p>	<p>【他者理解①】 友だちと協力して探究活動に取り組んでいる。</p>
<p>【まとめ】 地震・津波発生時のとるべき行動や心構えについてまとめる。</p> <p>家族や学校のみならず、さらには地域の人たちに呼びかける方法を考える。</p> <p>学習をふりかえり、災害時にとるべき行動や心構えについてのキーWordを考える。</p>		<p>【他者理解②】 家族や地域の方に学習したことを伝えることで、すすんで地域とかかわっていかうとする。</p>